

室蘭工業大学-学報

NO.655



令和6年度入学宣誓式の様子
(7ページに関連記事あり)

2024年 5月号

目 次

◇ トピックス ◇

空閑良壽学長退任のご挨拶について.....	1
松田瑞史学長就任のご挨拶について.....	3
趙 越准教授が第8回応用物理学会フォトンクス奨励賞を受賞	4
室蘭工業大学Boxを全学導入	5
令和6年度入学宣誓式を挙行.....	7
浅田研究室が開発した技術が国土交通省.....	8
院価値再発見Campaign2024がスタート	9
道新室蘭政経文化懇話会において内海航空宇宙機システム研究センター長が講演.....	10
令和7年度入学者選抜 総合型選抜	11
伊達信用金庫との連携協定の締結.....	12

◇ 情報・資料 ◇

科研費内定者一覧.....	13
---------------	----

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ.....	19
受託研究等の受入れ.....	20
その他の補助金の受入れ.....	21
奨学寄附金の受入れ.....	22

◇ 人 事 ◇

人事異動.....	23
-----------	----

◇ 学内会議 ◇

学内各種委員会等の開催.....	24
------------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事・学外行事.....	25
----------------	----

空閑良壽学長退任のご挨拶について

空閑良壽学長は、2015年4月からは国立大学法人室蘭工業大学学長として9年間、本学の運営に尽力いたしました。令和6年3月31日(日)をもって任期満了により退任しますので、ご挨拶申し上げます。

学長退任のご挨拶

私は2015年4月から学長を拝命しましたので、9年間、本学の長として大学運営に携わってきました。理事・副学長時代の6年間を加えますと執行部での仕事が15年間になり、まさに本日をもって、本学を卒業となりますので、本日はその振り返りをさせていただきながら、退任の挨拶とさせていただきたいと思っております。

私は本学の特徴を、「確かな研究力をベースとした教育力」と表現しました。ここで言う「確かな研究力」というのはエビデンスに基づいた世界水準の研究力であり、世界のTOP50%論文誌に掲載された論文や世界中の研究者から参考に(引用)される論文として発表された研究成果に基づく力です。まず教育に関して振り返ると、学術担当理事時代(2014年4月)に、当時志願者減で苦戦していた大学院博士後期課程5専攻をひとつの工学専攻にまとめて定員減(24名から15名へ)を、博士前期課程は6専攻から3専攻にまとめ定員増(198名から226名)を行い、少なくとも大学院の安定的な志願者確保を実現させることができました。

また学長就任が決まった2014年の秋は、2016年4月から始まる、法人化後第3期(6年間)の計画を立てるタイミングでした。ここでは、学部教育の大改革を実施するための学部改組が最も大きな計画であり、これは2019年(令和元年)の工学部から理工学部への改組で実現しました。

本学は1949年に新製の国立大学になって以来70年間ずっと工学部でありましたが、理工系人材の幅を広げて、横串として全学必修の情報教育を大きく充実させた理工学部へと教育改革を行いました。

さらに情報教育に関しては、2021年度からは、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)を全学で実施、その実績をもって2024年度中には、2022年度からスタートした第4期中期目標・計画でも謳っている応用基礎レベルの申請・認定を目指しています。おかげさまで、後述する本学の研究力の充実と広報戦略がうまく噛み合っており、2023年春の本学昼間コースの一般入試(前期と後期日程合わせたもの)の倍率も、2022年度は少なくともデータがある過去20年間の中でダントツの最高倍率となり、本学の志願者総数も過去最高



でした。法人化が始まった2004年度入試の際は、女子学生は約50名、道外学生は約130名であり、2022年度は女子学生は100名に達し、道外学生も270名を超え、それぞれ倍増し、入学者の状況も20年前とは様変わりしました。

私は本学が国立の工業大学としての存在感を高めていくためには、私立大学との違いを鮮明にするべく、大学院教育の充実が必須と常々考えていました。進学希望の学生諸君からも、出口の産業界・社会からも魅力ある修了生を育てる大学院とするべく、第4期中に博士前期課程への進学率50%達成を学長ビジョンで掲げました。この意図は、本学に入学し大学生となった皆さんが、本学の大学院へ進学するのが普通の状態となる、そのようないわゆる「大学院大学」としての国立の工業大学としての存在価値を高めて、本学が生き残りたいというところにあります。まさにタイミング良く文部科学省は高度情報系人材の育成に舵を切り、国立大学の情報系大学院の拡充を予算化しました。本学は5年前の理工学改組の時点からすでに全学的に情報教育を厚く行なって来ていましたので、早速初年度に申請し、採択にこぎつけることができ、情報電子工学専攻(大学院博士前期課程)に、この4月より共創情報学コース(定員15名)を新設できました。大きな予算が伴った改組は、少なくとも法人化以降では今回が初めてのことです。ぜひとも、大学院進学率50%(300人超え)の起爆剤としたいものです。

博士後期課程支援に関しては、2021年度より「次世代イノベーションを駆動する異分野融合博士人材育成支援プロジェクト」の採択を得て、情報×専門の異分野融合人材の育成支援を行い、2023年度は前期17名、2023年度後期18名で、1年間1人当たり220万円の経済的支援と70万円の研究支援を行うことができました。こちらも2024年度以降26年度まで、次のプログラムも採択を受けることができました。またおかげさまで、運営費交付金

トピックス

共通指標で博士号授与率は3年連続で最高評価を受けていて、そのようなエビデンスに基づいた実績が大変重要であると思います。

つづいて、教育とも関連する研究についてです。学長ビジョンに基づき、「確かな『世界水準』の研究力」を本学の特長とすべく研究支援に力を注いできました。2020年度より学内公募型研究費募集開始（未来創造経費）し、2022年度には4期中期目標・計画のスタートダッシュを図るべく、内容を一新し、若手研究者支援パッケージも創設しました。2020年度より新たな年俸制を導入し、年齢や在職期間に関わらず業績に応じた職位設定、給与制度とし外部資金を獲得した場合のインセンティブも厚くしました。これにより、優れた若手教員の採用・昇進、教員の多様性も推進しています。また、2018年度より「AI 耐災害システム」を担う先端ネットワークシステムラボを重点化し、ラボに対して共創スペースを環境整備しました。本ラボからは2021年度に文部科学大臣表彰若手科学者賞（董冕雄教授）、2023年度には太田香教授も同賞を受賞しました。彼らは複数年、クラリベイト・アナリティクス「高被引用論文著者」に選出されており、「確かな研究力」の裏付けとなる量と質を担保した世界水準の論文創出に大いに貢献しています。昨年4月には本ラボをベースとして、世界TOP水準の研究を行う、コンピュータ科学センター（センター長の太田香教授を含む3人の卓越研究員も在籍）を設立し、これからの世代を担う若手研究者や博士課程の学生諸君を世界TOP水準の研究を行う環境のもとで育て始めたところですが、昨年末には太田教授が、JSTの先端国際共同研究推進事業「次世代のためのASPIRE」の採択も得て、さらなるセンターの充実を推進しています。

また本学の「確かな研究力」の裏付けの一つとして、私は「大学ランキング」の積極的活用を行なってきました。例えば世界大学ランキングの代表的なものとして、Times Higher Education (THE) の世界大学ランキングは5年連続のランキング入りを果たし、世界で1501+位となりました。また、QSアジア大学ランキングにおいても、2年連続でランクイン（501～550位）しました。この2つ世界の代表的大学ランキングにランクインしているのも、道内では本学と北海道大学の2大学のみであり、本学の研究力が光っています。また同窓生の頑張りとしては、技術士と一級建築士合格者数はそれぞれ国立工業系大学では全国3位と5位と好成績となっており、本学志願者などをターゲットとした本学の大学ランキング2024年版ポスターにまとめてアピールしています。

さらに、室蘭工業大学が北海道、室蘭の地に存在し続ける意義として、北海道との地域共創が強く求められています。本学では、室蘭の隣町の伊達市をフィールドとした内閣府SIP事業への採択、白糠町や白老町をフィールドとし、アイヌ文化の知恵を活用するJST共創の場事

業への採択、大樹町でのインターステラテクノロジズ社と共同した低コストロケットの開発など、北海道をフィールドとして、本学の研究力を活かす社会との共創事業に力を注いでいます。また、道内の自治体や道内に拠点がある企業等で活躍する多数の同窓生の皆さんとも協力して、社会貢献につながる共創事業を推進しています。

加えて連携の観点からもう1件、触れたいと思います。昨年末に北海道、東京、九州と日本を縦断する形で位置する3つの国立の工業大学（室蘭工業大学、東京工業大学、九州工業大学）による三工業大学が、産学連携、そして理工系人材育成の推進の観点から、三工大連携を締結いたしました。東京工業大学の岡山キャンパスで、キックオフシンポジウムを開催し、三工業大学の共通する強みである、フード&ヘルス、AI、航空・宇宙分野で3つの分科会を立ち上げて、研究紹介を行いました。今後まずは上記のテーマより、3つの工業大学の研究が協働することにより、具体化・発展して実現し、日本全体そして世界へ競争力を持って、アピールしていくことを期待しています。そして本学としては、私の学長ビジョンにも掲げている世界水準の研究力をもって、北海道というフィールドを活かしたMONO・価値づくりへの貢献を推進し、さらには3工大が連携して、日本全体のMONOづくり、価値づくり、課題解決に寄与していくことを心より期待しています。

最後になりますが、4月からは、私が学術担当理事・副学長のときから、13年間にわたり同じ執行部で、私の右腕として長らく、活躍いただいた松田先生が学長となり、本学の舵取りを行います。本学が向かう方向性は当面、私の学長時代と同じ方向性だと期待していますが、まずは新執行部が共通のベクトル・評価軸をもって、松田先生のリーダーシップのもと、本学の教育、研究、社会共創の発展、推進を進めていただきたいと思います。

私も立場はかわりますが、室蘭工業大学の応援を続けていきたいと思っています。皆さま方におかれましても引き続き、室蘭工業大学を応援して下さると幸いです。

空閑 良壽

松田瑞史学長就任のご挨拶について



この度、空閑前学長の後を受けて、室蘭工業大学第15代学長に就任し、令和6年4月1日からの6年間、室蘭工業大学の舵取りの役目を担うこととなりました。

本学は、平成31年4月に大学設立以来初めて、それまでの工学部から理工学部へと改組し、その卒業生を一昨年度から世に輩出し始めたところです。地域に根ざす理工系単科大学として、「北海道の課題解決は、日本の、更には世界の課題の解決につながる」と考えて、研究力の向上及び社会との共創推進のために必要な、教育改革・大学改革に取り組んでまいります。

今年度は、第4期中期目標・計画期間6年間の3年目にあたります。大学はすでにこの2年間、令和7年度終了時に予定されている4年目終了時評価に向けて、中期計画に明記した工程表（年度計画）に基づいて実施予定の施策・ミッションを遂行してきており、その慣性を保持し、あるいはさらに加速させつつも、第5期中期目標・計画期間の開始時（令和10年度）までは、大学の現在の大きな方向性は維持する予定です。

具体的には、

- ・「専門×情報」を柱とする学部教育の充実
- ・共創情報学コースの新設に象徴される大学院専門教育の実質化
- ・18歳人口が減少する中での、（女子学生や留学生も視野に入れつつ）優秀な入学生の確保
- ・外部資金獲得に繋がるような研究体制の再構築
- ・本学の機能向上に資するような大学連携の試み
- ・教職員の働き方改革への取り組み

などが、引き続き取り組むべき課題です。

本学の理念は「創造的な科学技術で夢をかたちに」ですが、ここ数年はそのもとで、「確かな研究力をベースとした教育力」をキャッチコピーとしてきました。今年度からはこれに加えて、「真なる探究心から未来の価値づくりを」を、新たに標榜しております。「価値」には、工学的にはハードウェアだけではなくソフトウェアも含む「もの」が、理学的には原理探求による「知見」が、それぞれの成果物として該当するかもしれません。教育研究に携わる教職員の立場だけではなく、学生の立場からも将来への志として、このキャッチコピーが使われると良いなと思うとともに、本学は今後も、社会に対して未来の「価値づくり」をする場でありたいと、強く願っております。

趙 越准教授が第 8 回応用物理学会フォトニクス奨励賞を受賞

応用物理学会フォトニクス奨励賞は、応用物理学会フォトニクス分科会が主催し、フォトニクスに関する優れた学術的業績を挙げた若手研究者を称える賞です。表彰の対象は、過去2年間に公表された学術誌に掲載された優れた原著論文の筆頭著者であり、40歳以下の研究者です。

【受賞者コメント】

応用物理学会フォトニクス奨励賞を受賞できたことを心から光栄に思います。この受賞は、私だけではなく、共著者の皆様や特に豊田工業大学の藤貴夫教授のご支援とご指導の賜物です。心から感謝申し上げます。今後も、研究の成長と展開に全力を注ぎ、さらなる成果を目指して精進してまいります。



室蘭工業大学、学生の多様な学び、教職員の多様な働き方を 実現するためのコンテンツ管理基盤としてBoxを全学導入

室蘭工業大学は株式会社インターネットイニシアティブ（以下IIJ）、株式会社マクニカ（以下マクニカ）の支援で、学生の多様な学び、教職員の多様な働き方を実現するためのコンテンツ管理基盤として、「Box※」を全学の学生や教職員約3,500名を対象に導入しました。

室蘭工業大学では従来、教育活動で利用するファイルやデータを学内の様々なサーバーで管理していましたが、コロナ禍を機に学生向けのリモート授業や教職員の在宅勤務を取り入れたことで、情報資産に学外からアクセスでき、かつ一元管理できる環境づくりが必要となりました。そこで、ICTパートナーであるIIJおよびマクニカが支援し、令和5年11月より運用を開始しています。

—Boxとは—

「Box」は世界で11万社以上、日本国内では、1万6千社以上の企業や組織が利用するコンテンツの管理・共有のためのクラウドサービスです。場所やデバイスを問わず、セキュアなアクセスとデータの活用を実現し、他のシステムとの連携によりコンテンツの一元管理を可能にします。

導入の背景

室蘭工業大学では、令和4年7月に「デジタル・キャンパス推進基本方針」を策定するとともに、デジタル・キャンパス推進室を設置して、データ駆動型キャンパス、すなわち「デジタル・キャンパス」の実現に向けて、デジタルトランスフォーメーション（以下DX）を進めており、その一環として今回の「Box」の全学導入に至りました。

これまでは、大学諸活動の基本となるコンテンツ、例えば教職員が業務で使用するデータ、学生および教職員間の教材やレポート、研究データが様々な学内サーバーに分散しており、一元化して管理できておらず、情報の共有や利活用に課題を抱えていました。また、コロナ禍における在宅勤務や遠隔授業などの経験も踏まえて、安全、安心なファイル・データ共有が求められていたところでした。

本導入により期待すること

導入初期段階として、ペーパーレスでの会議運用、学内外提出物のオンライン化などの事務業務の効率化をはじめとして、学内各研究室における学生と教員の研究データ共有、指導の実施、国や企業、自治体等との共同プロジェクトでのデータ共有などを進めていきます。さらに、emailでのパスワード付き添付ファイルの学内利用、

USBによるデータ受け渡しを撤廃し、セキュリティの向上にも努めていきます。

このたび、IIJおよびマクニカは、Boxの全学導入にあたり、ユーザ権限設定やフォルダ構成の整理を支援しました。また、ユーザ管理においても、学生の入れ替わりが毎年あることを踏まえ、Boxと学内ネットワークのユーザ認証サーバーとを連携し、Box上のユーザ管理業務を自動化する仕組みを導入しました。今後、室蘭工業大学は、両社の協力を得ながら、電子決裁システム、生成系AIなど様々なシステム・機能をBoxと連携させていき、来たる未来社会Society 5.0を見据えたDXの基盤として、業務の効率化にとどまらず、教育、研究、共創のさらなる加速・発展に資する利活用を進めていく予定です。

【室蘭工業大学】

1887年に室蘭工業大学の祖となる札幌農学校工学科が設置され、1949年に室蘭工業大学となりました。自然豊かなものづくりのまち室蘭の環境を活かし、総合的な理工学教育を行い、未来をひらく科学技術者を育てるとともに、人間・社会・自然との調和を考えた創造的な科学技術研究を展開し、地域社会さらには国際社会における知の拠点として豊かな社会の発展に貢献します。

所在地：北海道室蘭市水元町27-1

代表者：松田 瑞史

URL：<https://mutoran-it.ac.jp/>

【株式会社インターネットイニシアティブ】

株式会社インターネットイニシアティブ（IIJ）は、1992年に設立され、1994年に国内初の本格的なインターネット接続サービスを開始しました。現在、IIJグループは約14,000社の国内外企業に対し、インターネット接続、クラウド、セキュリティに加え、IoTや動画配信、さらにシステム構築や運用アウトソーシングなど総合的なネットワーク・ソリューションを提供しています。また個人向け通信サービス「IIJmio」を展開しています。

所在地：東京都千代田区富士見2-10-2

代表者：勝 栄二郎

URL：<https://www.ij.ad.jp>

【株式会社マクニカ】

マクニカは、半導体、サイバーセキュリティをコアとして、最新のテクノロジーをトータルに取り扱う、サービス・ソリューションカンパニーです。世界23か国/地域81拠点で事業を展開、50年以上の歴史の中で培った技術

トピックス

力とグローバルネットワークを活かし、AIやIoT、自動運転など最先端技術の発掘・提案・実装を手掛けています。

所在地：横浜市港北区新横浜1-6-3 マクニカ第1ビル

代表者：原 一将

URL：<https://www.macnica.co.jp/>

令和6年度入学宣誓式を挙行

令和6年度入学宣誓式を令和6年4月3日(水)に挙行しました。

○各入学者数

・理工学部学士課程入学者数	658名
・編入学者数	46名
・大学院博士前期課程入学者数	236名
・大学院博士後期課程入学者数	8名



浅田研究室が開発した技術が 国土交通省「点検支援技術性能カタログ」に掲載

土木工学トラック浅田研究室が研究開発、社会実験を進めてきたインフラ点検技術「HibiMiru」が、この度、国土交通省の新技術活用施策の「点検支援技術性能カタログ」に掲載されました。令和5年10月に国の性能試験を受け、今回、舗装点検支援技術と道路巡視支援技術の2件が審査を通過し、カタログ掲載に至りました。現在、北海道開発局が管理する道内国道で全面的に採用されており、今後は、道道や市町村道、道外への展開が期待されています。

国土交通省報道発表

「点検支援技術性能カタログを拡充」

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001737836.pdf>

- ・点検支援技術性能カタログ一覧（舗装点検）令和6年4月
- ・点検支援技術性能カタログ一覧（道路巡視）令和6年4月

<https://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html>

院価値再発見CAMPAIGN2024がスタート

室蘭工業大学大学院の魅力をPRし、進学を応援するキャンペーン「院価値再発見キャンペーン2024」がスタートしました。

室蘭工業大学の大学院は、理工系の学びを通して高度な専門知識を身に付けるだけでなく、研究活動に伴う様々な経験を通じて、人として成長できる「価値」ある場所です。

室蘭工業大学は、学生には大学院の「本当の価値」を知った上で、進路を選択して欲しいと考えています。

大学院についてほとんど知識のない学生はもちろんの

こと、すでに一部の情報を知っている学生にも、大学院の「価値」を改めて伝えたいという思いから、このキャンペーンは「院価値再発見Campaign」という名称に決定しました。

院価値再発見Campaignでは、大学院の魅力を伝える動画、大学院進学に関する30種の標語を学内に掲示、キャリアサポートセンターによる大学院進学ガイダンス、現役の大学院生にインタビューをし、定期的にSNS（X、Instagram、TikTok、YouTube）で発信するなどを予定しております。



院価値再発見
Campaign 2024

院価値再発見Campaign2024 特設HP

道新室蘭政経文化懇話会において 内海航空宇宙機システム研究センター長が講演

令和6年4月17日、本学航空宇宙機システム研究センターの内海政春センター長が、道新室蘭政経文化懇話会において「拡大する宇宙への挑戦と北海道の宇宙未来像」と題し、講演を行いました。

講演は、日本の宇宙開発の現状から始まり、ロケットが飛ぶ原理を実例を用いて説明しました。内海センター長は「北海道内の宇宙関連産業には大きな可能性がある。」と講演を締めくくりました。



懇話会の様子



内海航空宇宙機システム研究センター長

令和7年度入学者選抜 総合型選抜（昼間コース）における女子枠の創設について

室蘭工業大学では、令和7年度入学者選抜（令和6年度実施）から、総合型選抜（昼間コース）において、女子を対象とする「女子枠」を創設します。

募集人員は、女子枠合計15人として実施します。なお、女子枠の志願者は、一般枠との併願が可能となっております。つきましては、下記のとおり概要をお知らせいたします。

1. 背景と目的

日本では、少子高齢化による労働人口の減少が避けられない一方で様々な視点からの課題解決や新たな価値の創造が出来るイノベティブな人材の必要性はますます高まっています。世界水準のイノベーション人材を育成するためにダイバーシティの推進が急務であり、高等教育においても理工系分野の男女比率改善に向けてより積極的な施策がとられています。本学では多様な価値観・経験・知識を持った学生らが協働することにより様々な視点から課題の解決に向けて取り組むことが重要であると考えております。

このような背景の中、本学では女子入学者割合はこれまで全体の約11～16%であり、工学系全国平均と同様に女子学生が少ない状況にあります。

この現状を打開するため入試改革に着手し、この度、令和7年度の総合型選抜（令和6年度実施）において「女子枠」を創設しました。この選抜では、基礎的な学力の評価に加えて、面接において、各学科の多様な視点から「ダイバーシティに対する理解度」や「ダイバーシティ推進に向かう姿勢や意欲」を重視して評価します。

理工系に関心のある女子を積極的に受け入れ、本学の学修環境をより多様化させ、多様な人と協働し、地域社会や国際社会の発展に貢献する能力を育み、社会で活躍できる女性技術者や研究者の輩出を目指します。

2. 募集人員

理工学部昼間コース

学 科	総合型選抜			
	I		II	
	一般枠 ※1	女子枠 ※2	一般枠 ※1	女子枠 ※2
創 造 工 学 科	64	6	9	3
システム理化学科	46	4	6	2
合 計	110	10	15	5

※1 性別によらず出願できる入試区分を「一般枠」と称する。

※2 女性のみが出願できる入試区分を「女子枠」と称する。

3. 出願要件

総合型選抜 I と II の一般枠と同じ。（一般枠と併願可能）

4. 出願期間・選抜期日・合格発表日

総合型選抜の一般枠と同じ。

5. 選抜方法

総合型選抜 I と II において、各々従来の選抜方法に加えて面接時にダイバーシティに対する理解、ダイバーシティ推進に向かう意欲や姿勢等を問う。

6. 開始時期

令和6年10月実施の昼間コース総合型選抜 I ・ II から設置。

伊達信用金庫との連携協定の締結

室蘭工業大学と伊達信用金庫は、令和6年3月19日(火)室蘭工業大学会議室において協定締結式を行いました。

締結式には、本学の空閑学長、伊達信用金庫の館崎理事長が出席し、連携協定が締結されました。

本学と伊達信用金庫は、本学が代表研究開発機関として推進している伊達市での戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の取組みや成果を持続可能なものとし、伊達市の発展に寄与することを目的として、協定を締結しました。

本連携協定では、伊達市を中心に周辺地域でも

Society5.0時代のまちを具現化するための戦略策定、SIPでの取組を持続可能なものとするための投資についての戦略策定等が盛り込まれています。

空閑学長からは「大学のミッションとして、教育、研究の他に社会との共創が強く求められている。北海道の価値づくりに貢献できる学生を育成するとともに、農業を中心として本学が伊達市の課題を地域社会との共創により解決していきたい。伊達信用金庫様においては、基幹産業である農業への取組みを強化されているところであり、本学と同じベクトルで連携していただけることを期待している。」旨の挨拶がありました。



記念撮影に応じる、左から館崎理事長、空閑学長



記念撮影に応じる、左から加藤総務グループ副長、萬代常勤理事、館崎理事長、空閑学長、松田理事、船水理事、山中教授

※職名は令和6年3月19日現在の表記です。

令和6年度科学研究費助成事業の交付内定

《新規分》

(千円)

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研究題目	直接経費 内定額	間接経費 内定額	合計
基盤研究 (B)	もの創造系領域 教授 川村 志麻	砕屑岩・火山灰質土斜面の地震や気候変動による斜面崩壊発生危険度システムの開発	6,100	1,830	7,930
	もの創造系領域 教授 真境名 達哉	簡易耐火造平屋建て公営住宅の住み継ぎの可能性に関する検証と地方自治体に与える効果	2,700	810	3,510
基盤研究 (C)	もの創造系領域 教授 梶原 秀一	パラメータが周期的に変化する2点吊り剛体振子の数理構造解明とねじれ振動制御の試み	900	270	1,170
	もの創造系領域 准教授 大石 義彦	多分散径分布の局所ボイド変動がもたらす空気潤滑効果のマキシマイゼーション	2,000	600	2,600
	もの創造系領域 准教授 後藤 芳彦	有珠山の次期噴火予測と火山防災：洞爺カルデラと有珠山の全噴火史解明	900	270	1,170
	もの創造系領域 准教授 立山 耕平	衝撃負荷に対して柔軟性を発揮する“壊れない複合材料”の創成	800	240	1,040
	もの創造系領域 准教授 船水 英希	ディープAIホログラフィックフローサイトメトリによる血液診断法の創出	1,100	330	1,430
	もの創造系領域 准教授 湊 亮二郎	再使用型宇宙輸送システムのための逆行流エアインテーク空力性能に関する研究	1,300	390	1,690
	もの創造系領域 助教 高橋 一弘	水溶液へのパルス放電プラズマ照射における水中の特異な流動機序の解明	1,700	510	2,210
	しくみ解明系領域 教授 董 晃雄	デジタルツインとドローンによる避難支援システムの研究	900	270	1,170
	しくみ解明系領域 教授 徳楽 清孝	変性タンパク質凝集が引き起こす細胞恒常性破綻機構の統合的理解とその抑制物質の探索	1,200	360	1,560
	しくみ解明系領域 教授 山中 真也	炭酸カルシウムの形態と機能の総合的理解と新機能の開拓	500	150	650

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研究題目	直接経費 内定額	間接経費 内定額	合計
基盤研究 (C)	しくみ解明系領域 教授 吉田 雅典	嚥下困難の程度を身体に優しい検査により評価して合理的に安全な嚥下補助を実現する	1,100	330	1,430
	しくみ解明系領域 准教授 雨海 有佑	可逆的アモルファスーアモルファス転移に伴う巨大な熱膨張現象の解明	2,200	660	2,860
	ひと文化系領域 教授 桑田 喜隆	生成系AIを活用したJupyter Notebookのプログラミング演習に関する研究	1,500	450	1,950
	ひと文化系領域 教授 高橋 雅朋	一般枠付き曲面論の構築とローレンツ・ミンコスキー空間への応用	1,200	360	1,560
	ひと文化系領域 准教授 三村 竜之	フィールドワークと文献調査によるノルド諸語のアクセント消失と変化に関する基礎研究	200	60	260
若手研究	もの創造系領域 助教 荘 司成熙	不可視ガス流量計測のための光音響プローブによる完全非侵襲流速分布計測法の実現	1,700	510	2,210
	しくみ解明系領域 助教 鈴木 元樹	コーチングのための多種スポーツ匠AI基盤による協調的フィードバック技術の開発	1,100	330	1,430
合計		19件	29,100	8,730	37,830

《継続分》

(千円)

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研究題目	直接経費 内定額	間接経費 内定額	合計
基盤研究 (B)	もの創造系領域 教授 青柳 学	ハイブリッド超音波浮揚システムによる6自由度アクロバティック・マニピレーション	1,400	420	1,820
	しくみ解明系領域 准教授 小林 洋介	植物との対話をモデル化した大規模トマト施設栽培グロウワーの判断シミュレータ	4,300	1,290	5,590
基盤研究 (C)	もの創造系領域 教授 有村 幹治	エッジ/クラウドAIによるリアルタイム冬期道路交通移動支援プラットフォームの構築	1,400	420	1,820
	もの創造系領域 教授 市村 恒士	都市公園リノベーションに資する造園業の地域課題解決型事業推進に向けた経営学的分析	200	60	260
	もの創造系領域 教授 風間 俊治	バルプレスバルブの試作研究～液体の相転移・粘度変化を利用して～	400	120	520
	もの創造系領域 教授 小室 雅人	鋼繊維混入無孔性コンクリートの耐衝撃用途構造物への応用・展開	600	180	780
	もの創造系領域 教授 高瀬 裕也	AIによる新設計法の提案を目指した劣化・損傷・補修を複雑に経験したRC梁の力学特性	800	240	1,040
	もの創造系領域 教授 中津川 誠	既存ダム総力をあげた治水のための流入量予測手法の普遍化	1,200	360	1,560
	もの創造系領域 教授 花島 直彦	丈長植物密生地を対象とした展開脚と螺旋機構のハイブリッド式移動機構	1,000	300	1,300
	もの創造系領域 教授 湯浅 友典	酸素飽和度をクラウド検出する進化型データベース皮膚分析システム	1,000	300	1,300
	もの創造系領域 教授 渡邊 浩太	超高速数値解析&位相最適化が可能にする次世代モータ開発	500	150	650
	もの創造系領域 准教授 浅田 拓海	AI型路面測定の実用による地域の救急医療に資する舗装維持管理方策の提案	800	240	1,040
	もの創造系領域 准教授 柴原 浩平	パーソナルサーマルマネジメントシステムに適用可能な平均皮膚温予測モデルの開発	900	270	1,170
	もの創造系領域 准教授 佐藤 信也	堤防やのり面におけるAIを用いた防災用光ファイバ計測	300	90	390

基盤研究 (C)	もの創造系領域 准教授 佐藤孝洋	確率共振の活用による浮体式波力発電システムの高稼働率化	400	120	520
	もの創造系領域 准教授 永井宏	埋戻し土の不確実性が新設杭の周面抵抗に及ぼす影響の解明と周面抵抗力の算定法の構築	600	180	780
	もの創造系領域 准教授 畠中和明	航空機の姿勢制御に適用する流体的推力偏向ノズル内流れ場の理解と偏向性能の最適化	500	150	650
	もの創造系領域 准教授 溝端一秀	クランクアロー超音速機形状の動的空力にかかる周囲流れの空間的・時間的メカニズム	1,300	390	1,690
	もの創造系領域 助教 佐々木大地	金属の短寿命化促進条件の探索：非鉛系圧電セラミックス作製法創製に向けて	300	90	390
	しくみ解明系領域 教授 戎修二	希土類硫化物が示す特異物性の起源解明と準安定状態制御・積極利用による巨大物性応答	1,400	420	1,820
	しくみ解明系領域 教授 太田香	次世代無線システムの超低消費電力化を目指した通信制御技術	1,100	330	1,430
	しくみ解明系領域 教授 岡田吉史	心電図を用いて多種類の心疾患の識別を実現する軽量な深層学習モデルの開発	1,100	330	1,430
	しくみ解明系領域 教授 亀川厚則	貴金属触媒を凌駕する超効率アンモニア合成のための非貴金属/希土類水素化物触媒の開発	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 教授 近藤敏志	教師データ作成を不要とする医用画像向け深層学習モデル転用技術の開発	600	180	780
	しくみ解明系領域 教授 佐伯功	Co-W拡散バリアコーティングの多成分系および実材料への展開と社会実装	600	180	780
	しくみ解明系領域 教授 CHANG Young-Cheol	芳香族・脂肪族塩素化合物を完全分解する微生物コンソーシアムとPHB生産方法の確立	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 教授 中野英之	アゾベンゼン系分子ガラスのキラル光メカニカル挙動に与える環境場の影響	900	270	1,170
	しくみ解明系領域 教授 中野博人	創薬に向けた光学活性スピロオキシインドールの多成分触媒を用いない不斉合成法の開発	900	270	1,170
	しくみ解明系領域 教授 庭山聡美	対称ジエステルの環境に優しいモノ加水分解反応のメカニズム解明と高分子合成への応用	600	180	780

基盤研究 (C)	しくみ解明系領域 准教授 倉重 健太郎	深層強化学習による多目的環境下での調和的行動の実現	400	120	520
	しくみ解明系領域 准教授 黒澤 徹	強相関超伝導物質群におけるペア密度波が創造する新奇量子状態の微視的探索	600	180	780
	しくみ解明系領域 准教授 柴山 義行	ウェルコントロールな量子渦による量子流体のダイナミクスの解明	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 准教授 李 鶴	超低消費電力IoTシステムの研究開発	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 助教 下村 拓也	共通アニオン誘起によるイオン液体+イオン液体混合物の劇的な相挙動変化に関する研究	500	150	650
	しくみ解明系領域 助教 高岡 旭	幾何的交差グラフに関するアルゴリズム的研究	600	180	780
	ひと文化系領域 教授 上村 浩信	異なる運動タイプを弁別可能なニオイセンシングシステムの開発	100	30	130
	ひと文化系領域 教授 曲 明	Moodleを活用したオンライン国際交流・協働型中国語教育モデルの開発	700	210	910
	ひと文化系領域 教授 清末 愛砂	離婚手続時の養育プログラムの制度設計に関する政策提言-アジア地域における比較研究	1,100	330	1,430
	ひと文化系領域 教授 塩谷 亨	ポリネシア諸語における同系の前置詞の用法の対応及び差異に関する対照研究	300	90	390
	ひと文化系領域 教授 竹ヶ原 裕元	バーンサイド環の一般化とその乗法的性質の研究	600	180	780
	ひと文化系領域 教授 森田 英章	離散構造に付随するゼータ関数の基礎理論と応用に向けた展開	600	180	780
	ひと文化系領域 准教授 阿知良 洋平	平和学習におけるヒューマニズムの再考	700	210	910
	ひと文化系領域 准教授 小野 真嗣	既存英語語彙表の再活用に向けたユーザビリティ尺度による有効性測定と満足度調査	900	270	1,170
	ひと文化系領域 助教 石坂 徹	対話的プログラミング演習環境における自動採点システムの構築	200	60	260
挑戦的研究 (萌芽)	もの創造系領域 教授 青柳 学	超音波ホモジナイザーの劇的性能UP アタッチメント:音響流ジェット・ブラスターの開発	600	180	780

挑戦的研究(萌芽)	もの創造系領域 教授 関根 ちひろ	超高压技術が拓く高性能熱電変換材料 の新たな開発方法	1,400	420	1,820
	もの創造系領域 教授 廣田 光智	熱可逆性ゲル水溶液を起爆で散布する 広域森林火災用消火カプセルの開発と その最適化	1,300	390	1,690
	しくみ解明系領域 教授 岸本 弘立	極超音速機に向けたホウ化ジルコニウム - 炭化ケイ素断熱モジュール要素 の試作	1,900	570	2,470
若手研究	もの創造系領域 准教授 KIM JIHOON	乾燥/再湿潤環境下におけるコンクリート 耐久性評価: ナノスケールでの水分挙動解明	1,000	300	1,300
	もの創造系領域 准教授 武内 裕香	結晶の磁場配向を利用した非侵襲痛風 診断システムの開発	1,200	360	1,560
	もの創造系領域 助教 井口 亜希人	次世代光回路要素のための双方向ビーム 伝搬法の性質を活用した高速設計基盤 の構築	300	90	390
	もの創造系領域 助教 川口 悟	深層学習を活用したポルツマン方程式 のグリッドレス直接数値解析法の開発	1,000	300	1,300
	もの創造系領域 助教 瓦井 智貴	終局状態を考慮した落石荷重を受ける FRP補強RC梁に関する耐衝撃設計手法 の開発	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 助教 泉 佑太	機動的災害リモートセンシングを目指 したドローン搭載ポーラリメトリック SARの開発	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 助教 徐 建文	超低消費電力山岳救助支援システムの 研究開発	1,200	360	1,560
	ひと文化系領域 准教授 可香谷 隆	動的接触角構造を伴う平均曲率流に対 する幾何解析的研究	800	240	1,040
	ひと文化系領域 准教授 内免 大輔	臨界型非線形楕円型方程式における解 の集中現象の研究-余質量を伴う集中-	700	210	910
	ひと文化系領域 准教授 白 尚燁	サハリンエウエンキ語の記述: サハリ ンにおける言語接触とその歴史の変遷 の解明	1,000	300	1,300
研究活動 スタート支援	ひと文化系領域 准教授 山田 祥子	ウイльта語の統合的な記録・記述と資 料化: 音声・グロス・訳付き資料の作 成と公開	900	270	1,170
合 計		59件	51,700	15,510	67,210
総 合 計		78件	80,800	24,240	105,040

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額 (千円)
もの創造系領域 准教授 安藤 哲也	大企業	950
もの創造系領域 准教授 境 昌宏	大企業	500
もの創造系領域 助教 藤平 祥孝	大企業	780
しくみ解明系領域 教授 藤本 敏行	大企業	26,000
しくみ解明系領域 教授 山中 真也	大企業	1,820
しくみ解明系領域 教授 渡邊 真也	大企業	1,300
しくみ解明系領域 教授 渡邊 真也	大企業	770
しくみ解明系領域 准教授 小林 洋介	大企業	878
合 計 (8件)		32,998

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 北 沢 祥 一	公益法人等	2,200
合 計 (1件)		2,200

その他の補助金の受入れ

事業名	研究代表者・職・氏名	事業元	金額 (千円)
令和6年度中小企業政策推進事業 費補助金（成長型中小企業等研究 開発支援事業（Go-Tech事業）	もの創造系領域 准教授 中田大将	公益財団法人 北海道科学 技術総合振興センター	2,600
合 計（1件）			2,600

奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額 (千円)
株式会社アットマークテクノ	工学教育助成	50
NJT銅管株式会社	工学研究助成	550
DOWAホールディングス株式会社	工学教育助成	300
株式会社モビテック	工学教育助成	250
一般社団法人日本建築あと施工アンカー協会	工学研究助成	2,000
公益財団法人前田記念工学振興財団	工学研究助成	1,000
公益財団法人岩谷直治記念財団	工学研究助成	3,350
公益財団法人サントリー生命科学財団	工学研究助成	1,000
太平洋マテリアル株式会社	工学研究助成	900
太陽誘電株式会社	工学研究助成	500
公益財団法人KDDI財団	工学研究助成	3,000
合 計 (11件)		12,900

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和6年5月1日	〈採 用〉		
	大学院工学研究科准教授（しくみ解明系領域）	石 渡 龍 輔	東北大学東北メディカル・メガバンク機構助教
	大学院工学研究科特任准教授（しくみ解明系領域） 兼務：MONOづくりみらい共創機構	鈴 木 真 也	北海道大学産学・地域協働推進機構学術主任専門職員
令和6年5月1日	〈配置換〉		
	経理課係員（経理係）	池 田 麻 衣	研究推進課係員（研究戦略係）
	経理課係員（調達係）	新 谷 宏 太	総務広報課図書学術情報室係員（学術情報係）
	経理課係員（調達係）	石 川 大 貴	事務局付係員
	研究推進課係員（研究戦略係）	小 野 弥 南	事務局付係員
令和6年4月30日	〈退 職〉		
	大学院工学研究科 事務補佐員	菊 地 しずか	
令和6年5月1日	〈採 用〉		
	大学院工学研究科 技術補佐員	本 間 倫 子	
令和6年4月12日	〈雇用更新〉		
	大学院工学研究科 事務補佐員	松 本 三奈子	

学内会議

学内各種委員会等の開催

< 3月25日～4月24日 >

開催日時 令和6年3月26日(火)
会議名 第39回役員会

開催日時 令和6年4月9日(火)
会議名 第1回役員会

開催日時 令和6年4月11日(木)
会議名 第1回大学院工学研究科博士後期課程専攻長等会議

開催日時 令和6年4月11日(木)
会議名 第1回教授会

開催日時 令和6年4月16日(火)
会議名 第1回企画戦略会議

開催日時 令和6年4月18日(木)
会議名 第1回教育研究評議会

開催日時 令和6年4月18日(木)
会議名 第2回役員会

学内行事

- 3月25日(月) 寄付講座年度末報告会
- 3月29日(金) 定年退職辞令交付・永年勤続表彰式及び感謝状贈呈式
- 4月1日(月) 令和6年度事務職員基礎知識習得研修(17日まで)
- 4月2日(火) 辞令交付
- 4月3日(水) 令和6年度入学宣誓式
- 4月4日(木) 室蘭工業大学初任教職員研修

学外行事

- 4月24日(水) 美瑛町との包括連携協定調印式(美瑛町)

編集後記

- ◆ 広報誌用の写真撮影に同行することが増えてきました。先生や学生さんに、普段の通学風景や実験の様子などを取らせていただいています。時には授業にアポなしで入ることもあります。おかげさまでよい写真がとれています。
- 先日は、白老実験場で広報誌の表紙撮影をおこないました。霧雨が降る中、一時間も付き合ってくださいました先生と学生さん、カメラマンさんのおかげで大変きれいな写真が出来上がりました。写真をとっている写真というのはなかなか日の目を見ることはないと思いますので、編集後記の場所を借りてお披露目したいと思います。



(Garoon : 総務広報課秘書広報係、E-mail : koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課秘書広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

- 編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014
- 印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308